

クロスボーダーM&Aのリスクマネジメントセミナー（大阪会場）開催のご案内 ～DD・契約交渉のポイント、表明保証保険、CFIUSリスク等 最新トピック解説～

拝啓 貴社ますますのご隆昌誠に慶賀に存じます。

さて、日本企業が海外進出をするにあたって海外企業のM&Aを行うケースが急増しておりますが、一方で日本国内のM&Aと比較しても会計、税務、法務、環境等の面でリスクが高いため、あらゆる手段を使って、リスクマネジメントを図っておく必要があります。今般は、日本企業を代理して米国、欧州、アジア各国での海外M&Aについて豊富な経験と実績を持つ日比谷中田法律事務所の森幹晴弁護士を講師にお招きし、具体的な事例のケーススタディをもとに海外M&Aのリスクマネジメントの実践とノウハウを御紹介いただき、デューデリジェンス（DD）、契約交渉、補償の確保（表明保証保険等）等で押さえておくべき点を解説いただきます。また、AIG損害保険株式会社 経営保険部シニアマネージャー 北村卓也氏から、M&A リスクマネジメント・ソリューションにおける有益な手段であり、近年その活用頻度が高まっている表明保証保険につき、解説いただくよう予定しています。

経営企画部門、法務部門、財務部門、海外事業部門など関連部門のご担当者には是非ご参加賜りたく、ご案内申し上げます。御参加ご希望の向きは3月5日(火)までにオンライン(下段4)でお申込みください。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

敬具

1. 日時：平成31年3月8日（金） 14：00～16：00 （開場 13：30）

2. 場所：日本機械輸出組合 大阪支部会議室

<http://www.jmcti.org/jmchomepage/shoukai/shozaichi/index.htm#osaka>

3. 講演内容

講演1：「事例から学ぶ海外M&Aを成功に導くディールマネジメントのノウハウ」（90分）
講師：日比谷中田法律事務所 パートナー 森 幹晴 氏（弁護士、ニューヨーク州弁護士）

（主要講演内容）

- DDと契約交渉 - 潜むリスクにどう備えるか？ ディールマネジメントのノウハウ
【事例1】買収後に工場の品質管理問題等が発覚したケース（インド）
- 新興国リスク、不正リスクに如何に対応するか？
【事例2】買収後に不正会計が発覚したケース（ドイツ・中国）
- 補償の確保 - 表明保証保険とは？ その活用方法は？
【事例3】ファンドの売却案件で売手が虚偽の利益情報を提供したケース
(オーストラリア・ニュージーランド)
- M&Aと高まる米国の保護主義リスク - 法改正を踏まえた最新情報（アメリカ）
CFIUS（対米外国投資委員会）の審査強化と日本企業への影響、CFIUSファイリングの審査手続 等

講演2：「M&A リスクマネジメントの実践」（20分）

講師：AIG損害保険株式会社 経営保険部 シニアマネージャー 北村 卓也 氏

（主要講演内容）

- 表明保証保険とは
- 表明保証違反が疑われる保険金請求事例に係わる最新動向

質疑応答・意見交換（10分）

4. 参加申込み方法（組合員限定とさせていただきます。）

日本機械輸出組合HP（下記URL）から「オンライン申込」ボタンをクリックしてお申込みください。

(1)アクセス先 http://www.jmcti.org/jmchomepage/semminar/index.htm#m_a_osaka

日本機械輸出組合

- (2)ご登録頂いたメールアドレスに、当組合より受付確認メールを送付致します。
- (3)定員（40名）になり次第、受付を終了させていただきます。
- (4)当日は、会場受付にてお名刺を1枚申し受けます。引き換えに資料をお渡し致します。

5. 参加費 ◇ 無料（組合員限定とさせていただきます。）

6. 講師略歴

森 幹晴 氏	日比谷中田法律事務所 パートナー（弁護士、ニューヨーク州弁護士） 長島・大野・常松法律事務所（2004年 - 2015年）を経て、2016年1月より日比谷中田法律事務所勤務。なお、2011年-2012年は、Shearman & Sterling LLP ニューヨークオフィスに勤務。 M&A（日本企業による海外企業の買収、国内会社の買収）、独禁法、FCPA、CFIUSなどのコンプライアンス対応を専門とする。
北村 卓也 氏	AIG 損害保険株式会社 経営保険部 シニアマネージャー 2000年 仏HEC 経営大学院にてMBA取得。1991～1999年 日本長期信用銀行に勤務、2000～2015年 AONグループ（日本、チェコ、オランダ）にて、保険／リスクマネジメント・デューデリジェンス業務、中東欧・ロシア地域の日系企業取引部門の統括業務に従事。2015年より、現職にてM&A 保険専任引受担当となり、現在に至る。